

2. 玉置功労賞 選考結果

鈴木 和彦 殿

2018 年度 玉置功労賞 推薦状

鈴木和彦先生は、2018年3月末に岡山大学をご退職後、2018年4月から岡山大学自然科学研究科特任教授として勤務するとともに安全・安心科学研究所を設立し、日本のプロセス安全の向上を目指し益々精力的にご活躍されています。また、永年にわたって安全工学会の活動に寄与されており、その業績を簡単にご紹介し、玉置功労賞の受賞者として推薦いたします。

鈴木先生は1976年に九州工業大学制御工学科を卒業、民間企業勤務を経て、1987年からは岡山大学工学部生産機械工学科助手として勤務しました。1991年、工学博士（九州大学）の学位を取得しました。その後、岡山大学工学部機械工学科助教授（1993年）を経て、1998年から岡山大学工学部システム工学科教授、大学院自然科学研究科産業創成工学専攻教授、耐災安全・安心センター長を歴任、2018年に名誉教授の称号を授与されました。その間、プロセス安全を専門として、教育・研究を行い、論文・解説・著書等を執筆するとともに多くの博士、修士および学士を育成し、社会人教育に取り組んできました。

プロセス安全の研究では、大規模プラント（原子力施設）におけるリスク評価、安全管理のシステム化に関する研究から、近年ではIT技術を活用した次世代情報教示システムの開発（VR・ARによる運転支援システム、教育訓練システム）など幅広い分野にわたる研究業績は顕著であります。また、学問分野にとどまらず企業連携、産官学連携による安全活動を実践されました。特に、地元水島地区のコンビナート企業との関係が深く、研究成果を踏まえた事故・自然災害に対応できるコンビナートの安全性向上の実現に尽力されました。石油化学産業のみならず原子力分野においても委員等を歴任し広い視野から「安全」を俯瞰し企業安全からさらに社会安全を目的とした実践的活動は多岐にわたっています。倉敷市コンビナート防災審議会委員、岡山県石油コンビナート等防災本部専門員として、さらに山口県石油コンビナート等防災対策検討委員会、広島県石油コンビナート等防災アセスメント検討委員会、大阪府地震・津波被害想定等検討部会専門員、大阪府化学物質の災害時リスク低減検討会委員などとして地域産業保安に貢献しています。さらに高圧ガス保安協会（認定検査実施者調査委員会委員）、経済産業省、さらに石油エネルギー技術センター、日本化学工業協会など業界での安全関係委員として貢献しました。また、東ソー（株）南陽事業所 第二塩化ビニルモノマー製造施設爆発火災事故調査対策委員会、三井化学（株）岩国大竹工場 レゾルシン製造施設 爆発火災事故委員会等多くの事故調査に委員として参画し、事故原因調査・再発防止に関わりました。原子力分野では、原子力安全委員会専門委員会委員、原子力安全基盤機構 核燃料施設 PSA 分科会委員、燃料加工施設リスク情報活用検討委員会委員、日本原子力研究開発機構 安全研究委員会専門委員、山口県原子力安全顧問、山口県原子力防災対策専門部会委員等を歴任しました。

安全工学会における活動としては、企画委員会委員、理事、副会長を歴任したほか、「WCOGI 2014」（2014年）、「4th CCPS GSPS」（2017年）、「2018 プロセス安全シンポジ

ウム岡山大会」を企画・開催するなど安全工学会の主軸であるプロセス安全に係る議論と情報交流の場を提供し、日本のプロセス安全の活性化を牽引されました。安全工学会以外の安全に関する活動としては、化学工学会 安全部会運営委員会委員 (2002-2016) 等を歴任し、安全工学の発展に大きく寄与されてきました。

化学産業における安全のわかる将来の経営層の育成や企業の安全の中核となる幅広い見識を持った専門家の育成を目指して、山陽人材育成講座の立ち上げから参画し、現在まで継続して講師を務めているほか、近年は三重県四日市と岡山で産業安全塾を開講するなど、体系的安全教育の構築を目指した活動に注力されています。

鈴木先生のこれまでの研究・教育実践、永年にわたる安全工学会へ貢献、また社会安全を目指したそのご活躍はまさしく玉置功労賞にふさわしいものであるといえます。



略歴：

1987年1月 岡山大学工学部助手（生産機械工学科）
1993年4月 岡山大学工学部助教授（機械工学科）
1996年4月 岡山大学工学部助教授（システム工学科）
1998年3月 同教授
2005年4月 岡山大学自然科学研究科教授（産業創成工学専攻）
2014年1月 岡山大学耐災安全・安心センター センター長
2018年3月 岡山大学を定年退職
2018年4月 岡山大学名誉教授・特任教授 安全・安心科学研究所設立
現在に至る